

1 自己評価について

(1) 重点目標の達成に向けた具体的な取り組み状況や達成状況

<p>重点目標 「至誠」に則り行動できる人材・将来を見据えて学習に取り組む人材の育成 ◇学校生活における様々な教育機会での「至誠」を意識させ、取り組ませることで、基本精神に則り行動できる人材の育成を目指す。 ◇学習成果を活用する場面を社会と捉え、生徒の意識を広く実社会に向けさせ、将来を見据えて学習に取り組む人材の育成を目指す。</p> <p>努力点 ①「文武両道」および「人材育成」の実践 ②進路目標に応じた指導の徹底 ③主体的な学習・生活態度の確立に向けた取り組み ④諸課題への積極的な対応（安全・安心な学校づくり、いじめ防止対策、新学習指導要領への対応、ICTの有効活用等）</p>
--

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と教員の授業力向上を図っている。今年度も県教育委員会の「学力向上に向けた指導体制モデル事業」における「教員指導力向上事業」の指定を受け、地歴公民科が外部講師を招いた研究授業、先進校視察などの「教科指導力向上研修」を行った。生徒に「確かな学力（基礎力）」、「思考力・判断力・表現力」、「問題を解決していく実践力」を身につけさせるため、第1学年「学修状況評価」、第2学年「テーマ研究」を実施している。
- ・本年度より3年間、県よりSTEAM教育のモデル校に指定され、1学年で1回、2学年で2回の業者による探究学習の講座を行った。また、12月には「真岡高校生のための特別講座（エンジニアと未来をつくろう！～プロフェッショナルが現場で使う、高校での学び～）」が開催され、1、2年生の希望者が参加し、文理にとらわれずに課題を探究するSTEAM教育の体験がなされた。今後は、業者の支援を受けながら、「総合的な探究の時間」の課題探究活動をブラッシュアップしていく。
- ・生徒は文武両道を実践し、学習、部活動に日々積極的に取り組んでいる。部活動においては、陸上競技部、空手道部、吹奏楽部、写真部が関東大会に出場し、吹奏楽部は関東大会金賞、陸上競技部ハンマー投げはインターハイで3位になる快挙であった。また、今年は「いちご一会国体」があり、陸上競技（1名）とサッカー競技（4名）が出場、加えて1、2年生の空手道部員、陸上競技部員、サッカー部員が補助員として参加した。
- ・「教育相談アンケート」の中に自己有用感を感じているかを問う設問を設け、その結果を指導に生かす取組も行っている。また、スクールカウンセラーの配置により教育相談体制の充実を図ることができた。

(2) 学校運営の取り組み状況

- ・「至誠」を基本精神に掲げ、校長の学校経営方針の下、教職員が一丸となって、生徒の指導、援助に当たっている。また、生徒も、文武両道を実践し、学習にも部活動にも日々積極的に取り組んでいる。
- ・PTA、同窓会をはじめ、地域の関係諸機関との連携により伝統ある地域の進学校として将来リーダーとなるべき人材の育成に取り組んでいる。
- ・第1棟内部（トイレ・パーティション等）改修工事が行われ、11月10日に竣工した。例年、生徒・保護者からトイレ改修を求める意見があったが今年は無くなり、学習環境が改善された。
- ・コロナ禍により中止となっていた「合唱コンクール」「学校祭」を3年ぶりに行った。感染対策のため、学校祭の入場者や企画の制限はあったが、文化部発表を学年ごとに時間差で鑑賞したり、クラス紹介・ミス白布を動画発表にするなど創意工夫して実施した。生徒はクラスメイトと協働、団結する体験をすることができた。

(3) 校務分掌各部・教科・学年の取り組み状況

- ・生徒の主体的な行動力を高めるため、各校務分掌が互いに連携を取りながら生徒の指導・援助を進めた。特に、進路指導部では、各学年の進路係と連携して、「3年間の指導の流れ」に沿った指導を行った。生徒指導部は、生徒のあり方生き方を自ら考える姿勢を醸成するような指導を心掛けた。また特別な支援を要する生徒に対し、特別支援教育委員会を開催し、学習指導部と連携して、学習指導の面で合理的な配慮に取り組み、効果的な支援を図っている。

- ・年5回の担任との面談が実施され、アンケートの「面談をなどを通して生徒理解に努めている」の回答は肯定的な意見が生徒95%、保護者92%と全ての回答の中で最も高評価されている。

(4) 授業改善及び学力向上に向けた取り組み状況や達成状況

- ・生徒の視点に立った授業改善を進めるとともに、主体的に授業に取り組もうとする態度を育むため、「授業に関するアンケート」を実施した。また、各教科の分析結果を職員会議で共有した。
- ・電子黒板やタブレットの効果的活用の研究と授業実践・改善によって、生徒の主体的・対話的で深い学びを促進する授業が展開されている。
- ・各教科の研究授業を互いに参観し、指導力向上に努めている。タブレットを使ったスピーキングテストを行っている英語科の授業等がICT機器活用の実践例として挙げられる。

(5) 開かれた学校づくりの取り組みに対する状況

- ・ホームページや学校だより（白布ヶ丘だより）、一斉メール等を通じて、学校の情報が正しく保護者や地域に伝わるよう広報活動に努めている。学校だよりは近隣地域の回覧板に添えて配布していただいている。
- ・野球部の地域清掃、生徒会主催の落ち葉清掃ボランティア、真岡鐵道利用者の駅舎清掃などが例年通り行われた。また、新しく真岡児童館における教育ボランティアも計画されており、地域連携が図られている。

(6) 生徒・保護者アンケート結果を踏まえての評価

- ・今年度より、アンケート調査方法を紙面から、ICT支援員のサポートを受けFormsのアンケート機能に変更した。特に、保護者には一斉メール配信で案内したところ99.5%（昨年は94.6%）という高い回答率を得ることができた。
- ・ほぼ肯定的な意見が8割から9割以上を占めており、高い評価を維持している。「わからない」という回答が多い項目、高評価が5ポイント以上減少した項目については、広報活動等を通して、より分かりやすい説明を続けていく。

(7) 教職員の意識改革及び意欲向上に向けた取り組み状況

- ・今年度の1年生から実施される新学習要領の観点別評価について、昨年度に全教科で評価を試行して準備を万全にして臨むことができた。問題なく実施できている。
- ・進路指導部が開催する進学指導研究会と出願大学検討会において、直接生徒を指導する担任団と進路指導部の各教員が大学学部学科についての情報や進路選択についての考え方等を共有しており、学校全体で生徒の進路指導を行っていく体制づくりができている。

2 学校関係者評価について

(1) 評価組織（評価者）

学校評議員（保護者を含む）を学校評価委員に委嘱して評価を行った。

(2) 評価結果

- ・施設工事、特に1棟トイレ改修は喜ばしい。
- ・年5回の担任面談は、アンケートでも高評価であり、生徒一人ひとりを大切にして指導していることがわかる。生徒へのきめ細かいアプローチを、是非継続して欲しい。
- ・授業公開で、板書と電子黒板を上手に使い分けて大変わかりやすい授業をしているクラスがあった。自分もこのような授業を受けてみたいと思えるほど、わかりやすい授業展開だった。ICTの有効活用は、教科を超えて更に研修を進めて推進して欲しい。
- ・毎年作成されている『進学資料』の「合格体験記」には、「先生に頼むのがよい」という合格者の言葉が多く見られた。合格者の努力を支えた先生方の丁寧な指導が感じられる。
- ・アンケートでは、評価が低い項目は、情報がよく伝わっていないからだろう。情報を生徒、保護者と共有できるように工夫して改善して欲しい。いろいろな手段を使って情報発信して欲しい。
- ・文武両道の精神で頑張っているのは、すばらしい。引き続き推進して欲しい。
- ・地域清掃、ボランティアなどの地域交流は、地域に学校のを理解してもらえるので推進して欲しい。社会に触れる体験をして欲しい。
- ・今年度の重点目標に共鳴した。目線を将来に向けて向上していこうとするのが良い。
- ・STEAM教育の特別講座（本田技研出前授業）が良かった。多くの生徒が講座を聴けると良い。
- ・コロナ禍の制約の中、いろいろ工夫して学校行事ができて良かった。学校の諸活動は生徒と先生の信頼関係が大切だから、より強めて欲しい。
- ・HPの情報は、以前より充実してきた。見やすくなり、行事もタイムリーに載っている。
- ・保護者のアンケート回答率が99.5%と高いことは、学校への保護者の信頼と期待の高さを表している。

